

中等教育研究開発室年報 第35号 (2022年3月31日発行) 別冊電子版  
2021年度 授業実践事例

保健体育科 中学校第2学年

剣道

授業者 安方 菜々美

(校内研究授業)

広島大学附属中・高等学校

## 中学校 保健体育科 学習指導案

指導者 安方 菜々美

日時 令和3年12月17日(金)3限  
場所 体育館  
対象 中学校2年生女子59名(A組20人 B組19人 C組20人)  
単元 武道(剣道)  
目標

1. 基本動作や基本となる技を身につけることができる。(知識・技能)
2. 提示された動きのポイントを参考に、自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて自分の考えを他者に伝えることができる。  
(思考力・判断力・表現力等)
3. 武道特有の伝統的な行動の仕方を大切にし、健康安全を確保することができる。  
(学びに向かう力・人間性等)

### 単元計画(全9時間)

第1次	オリエンテーション及び礼法作法, 防具の着装	1時間
第2次	基本動作の確認, 素振り	1時間
第3次	基本打突の練習	3時間
第4次	リズム剣道	4時間(本時4/4)

### 授業について

武道は我が国固有の伝統文化であり、相手の動きに応じて、基本動作や基本となる技を身に付け、相手を攻撃したり、相手の技を防御したりすることによって、勝敗を競い合い互いに高め合う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

中学2年生の剣道では、基本動作や基本となる技を身につけることができるようにすることを目標としている。しかし、その動作である体さばき・足さばき、竹刀操作などは、普段の実生活にない動きをすることから難しい。

そこで本授業では、自己や仲間の課題を発見し、曲に合わせて基本技を打突するために、リズム剣道を取り入れた。提示した基本動作や入る・打つ・抜ける・残心までの一連の動作を曲に合わせてながら行うことで、短期間で習得できると考えている。

また、発表では、習得した動きをグループごとに表現し、剣道の楽しさや喜びを感じさせたい。そして、剣道を通して学んだ礼法作法を実生活に生かし、習得した基本となる技を来年の剣道の授業に活かしてほしいと考えている。

### 本時の目標

1. 基本動作や基本となる技を曲に合わせて打突することが出来る。
2. 打つ側と打たせる側の役割を果たし、積極的にリズム剣道に取り組むことが出来る。
3. 他のグループの発表を見て、自己の考えを他者に伝えることが出来る。

### 本時の評価規準(観点/方法)

1. 基本動作や基本となる技をリズムに合わせて打突している。(知識技能/活動観察・発表)
2. グループで課題を発見し、協力して学習活動に取り組んでいる。  
(思考力・判断力・表現力/活動観察・発表)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<導入> 防具の着装 出欠点呼 本時の説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胴，垂を着ける。</li> <li>・集合，挨拶，点呼</li> <li>・本時の内容の確認</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>グループで動きを合わせて，決めた技や工夫した隊形移動を発表しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席や見学者の有無を確認。</li> </ul>
<展開> 発表練習 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">磨く</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">繰り返す</div> 順番確認 発表 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">伝える</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで分かれて発表の練習を行う。</li> <li>・発表の順番を確認する。</li> <li>・各グループによる発表（6グループ×約2分）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲にあわせながら打突ができていないグループがあれば，曲に合わせるタイミングや打突のポイントの声掛けを行う。</li> <li>・見学者は，自分のグループの演技見てアドバイスをするように指示をする。</li> <li>・他のグループの発表を自分のグループとの相違点や工夫しているところを見つけながら，鑑賞しているか。</li> </ul>
<まとめ> 片づけ 学習のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防具の片づけ</li> <li>・本時の振り返り，次時の予告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調，怪我の確認</li> </ul>
準備物：竹刀 胴 垂 ホワイトボード マイク 音源 スピーカー		

○一連の動作

順序	運動	方法
1	用意	提刀姿勢で開始
2	立礼	提刀したまま立礼する（15度の礼）
3	3歩前	帯刀し、大きく3歩前進（右足→左足→右足）
4	蹲踞	抜刀後、蹲踞姿勢をとり、中段の構えの状態にする
5	足さばき	送り足を行う（前4歩、後ろ4歩、右4歩、左4歩）
6	正面打ち	一歩前進正面打ち（2回）→一歩後退正面打ち（2回）
7	左右面打ち	一歩右、右面打ち→一歩左、左面打ち→一歩右、右面打ち
8	切り返し	一足一刀の間でお互いに構える（中段の構え）→「ヤー」と発声 →一歩前進→その場で連続左右面打ち（右・左・右・左・右）→最後の右面打ちと共に、一歩後退→一歩前進→面打ち→抜ける→残心
9	基本技	面・小手・胴の基本技の中から、グループで技を選択する。（5回） （例：面5回、面・小手・胴・面・小手、面3回・小手2回 など）
	（面）	発声→一歩前進→面打ち→抜ける→残心
	（小手）	発声→一歩前進→小手打ち→抜ける→残心
	（胴）	発声→一歩前進→右胴打ち→抜ける→残心
10	蹲踞	一足一刀の間でお互いに構える（中段の構え）→蹲踞→納刀→起立
11	5歩後ろ	帯刀し、小さく5歩後退（左足→右足→左足→右足→左足）
12	立礼	提刀し立礼する（15度の礼）
13	終了	提刀姿勢で終了

## 実践上の留意点

### 1. 授業説明

中学女子2, 3年生の剣道授業は同じ時期に行われており、面と小手を共用して授業を行っている。しかし、コロナウイルス感染症対策の為、中学3年生は防具一式をつけて、中学2年生は胴と垂のみを着用し、授業を行うことになった。武道は中学校で初めて学習する内容であり、基本動作や基本となる技を確実に身に付け、それらを用いて、相手の動きに対応した攻防を展開できるようにすることが求められる。

面や小手をつけて技を打突することができない為、中学2年生の剣道は「リズム剣道」を取り入れ授業を行うこととした。リズム剣道を取り入れることで、音楽に合わせてながら短期間で、基本技をタイミングよく打つということが理解できる。また、グループ活動を取り入れ、グループで動きを合わせ、技を打つことで、「できた」や「そろった」という喜びを感じることができると考えた。また、「礼に始まり礼に終わる」という言葉があるように、動作の中に礼法を組み込むことで、伝統的な行動の仕方を守ろうとすることや、グループ活動を通して、仲間を尊重し思いやる態度を養ってほしいと考えた。

本単元では、剣道の歴史や礼儀作法、基本動作、基本技のポイントや動作の仕方を、5時間で確認し、6時間目からリズム剣道に入った。リズム剣道では、音楽のフレーズに合わせて技が打てるように、各グループで竹刀と竹刀がぶつかる音がばらばらにならないよう、意識させた。本授業はその成果を他者に伝える目的として、グループごとに発表を行った。

### 2. 研究協議より

- ・音楽に合わせた、一連の動作の中でも、「発声→一歩入る→切り返し→抜ける→残心」の動作では、タイミングが合わず、個人のリズムで動作を行っている生徒が多くみられた。そこで、「左手を自分の頭上まで上げる意識をし、大きく振りかぶって打突してみよう。」と指導を行った。しかし、長い物を持って上下に振りかぶるといふ非日常的な動作を音楽に合わせて行うことは、生徒には難しい動作なのではないかという意見をいただいた。音楽の速度や、技を打つ数などを改善していく必要がある。
- ・昨年度も同じ内容の授業展開を行ったが、基本動作や技を身につける速度、グループで動きを合わせて打突をすることができるようになるまでには、今年度との差異がみられた。そのため、単元数やリズム剣道に充てる時間数は、各年毎の学校生活での実情や雰囲気、剣道部経験者の人数によって、一連の動作や曲のテンポを工夫し、授業を展開していくべきだと感じた。
- ・生徒が武道（剣道）に対して、どのようなイメージを持っており、単元を通して、何を身につけられたのか、グループの発表を見てどのように感じたのかなど、生徒にアンケートをとり分析をすることができなかったため、今後は生徒の客観的意見を把握し、学習内容の工夫や検討を行いたい。
- ・リズム剣道を取り入れる際に、音楽によって動作を誘導しながらも、音楽性を追いすぎて動きがあいまいにならないような、音楽に合わせた一連の動作の工夫が課題である。

